

# 「下水道ってありがたい」

入 賞  
小田原市立足柄小学校

ど ぼ し し ょ う ま  
土 橋 昇 馬

ぼくは、下水道のことを学校で勉強しました。そのときに、お母さんに下水道のことを知っているか聞いてみました。お母さんはもちろん知っていました。そして自分が子どものころのことを話してくれました。

お母さんが子どものころは、家に下水道がまだなかったそうです。げんかんのすぐ下にあったどぶに、家からの排水が流れていたと教えてくれました。お母さんが外で遊んでいて、おばあちゃんが家でお皿をあらっていると、あわや野菜くずが排水といっしょに排水管から流れてきたり、おばあちゃんがお風呂そうじをしていると、入よくざいをいれて黄色になったお風呂のお湯が流れてきたりしたそうです。使ったあとの排水がそのまま流れてくるので、においもくさくて、どぶの中もきたなかったそうです。自分の家だけでなくとなりの家や近所もそうだったと教えてくれました。

昔のことなので、今はそれを見ることができません。ぼくはそうぞうしてみたけど、においがくさいのはいやだなと思いました。それから、家で今何をしているのか、だれかに見られてしまうのもいやだなと思いました。ぼくは、下水道がある時代に生まれて良かったです。

でも、今ではどこにでも下水道があると思っていたけれど、お母さんに聞いたら、  
「まだ下水道がない場所もあるよ。」

と教えてくれました。下水道の「ふきゅうりつ」を調べてみたら、小田原市内では82パーセントくらいだそうです。下水道がまだない場所もあるということに、ぼくはびっくりしました。下水道があると、においもくさくないし、まちがきれいなので、下水道がない場所にも早く作られるといいなと思います。

では下水道がどういうしくみなのか、ぼくが学校で勉強したことを説明します。

家で使われた水は、污水管を通過して、下水しよ理場に流れていきます。下水しよ理場では、どろやよごれを取りのぞいて、消毒します。そして、きれいな水にしてから、川や海に流します。この水はきれいだけれど、飲むことはできません。水せんトイレや公園の木の水やりなどに再利用されます。

下水しよ理場が水をきれいにしてくれるから、きたない水を流してもいいのかと思うかもしれないけれど、それはまちがっています。かみの毛や野菜くずなどよけいな物を流すと、污水管がつまるかもしれません。お皿をあらうときに、よごれがたくさん付いたままのお皿をたくさんせんざいであらうと、それだけ水がきたなくなります。シャンプーをたくさん使うとシャンプーを流すのにもたくさんの水が必要になるし、水もあわだらけになります。こういうことをしていると、下水しよ理場はとても大変になってしまうし、しぜんにも良くありません。

今までぼくは、よごれた水を何も考えないで流していたけれど、できるだけ水をよごさないようにしたり、使う水の量を考えたりしようと思います。きれいな水を川や海に流せるように、自分で気をつけられることは少しでも気をつけていきたいです。

よごれた水をきれいにし、川や海に流してくれる下水しよ理場は、とてもありがたいしせつだと思いました。